

ひろば大代

NO.298

大代公民館

H16.5.23

連合自治会長に なっている



連合自治会長 竹島 修

新年度を迎え、このたびの改選で、連合自治会長と言う大役を務める事と成りました。私自身、自治会長になるのも初めてのことで、分からない事ばかりで戸惑いながらも一ヶ月が過ぎました。感想は、「思っていた以上に大変だ」と言う事です。

今まで、各々の活動を断片的にしか捉えていなかった事を痛感しました。「高山会」そして「元気な町づくり事業」と新たな取り組みへ向かう流れの中で右往左往するばかりです。

しかし、分からないからと言って自治会活動を停滞させる事は出来ません。「初めてだからしょうがない」・「慣れたら出来るようになるから」と言われる言葉に甘える事なく、田辺前自治会長・横手前公民館長はじめ多くの諸先輩方に、ご指導と助言をいただきながら精一杯努めたいと思うところであります。

ねがわくば、町民の皆様方におかれましては、自治会活動への更なる御理解と御協力を御願ひして御挨拶とさせていただきます。

宜しくお願い致します。

はじめまして



大代駐在所 三島大吉郎

この四月の異動で松江から大代駐在所にやって来ました。まだ慣れなくて

分からないことがたくさんありますので、町民の皆さんよろしくお願い致します。

私は、中国五県警のリーダー格である広島県警が取り扱う事件事故を長年、中国新聞で研鑽しています。(図書館で)。そうした中で本年一月、めずらしい事件掲載があり、「広島県警もやるなあ」と思っただけをコピーをした次第です。

海田署は九日、海田町、介護士角本容疑者(二十六)を県迷惑防止条例違反の疑いで逮捕した。昨年十二月十六日午前四時ごろ、同町内の町道で、歩いて帰っていた広島市内の高校三年の女子生徒(十七)の後ろをついていき、「足をなめさせてくれ」などとみだらな言葉をかけた疑い。同三十日に生徒が同市内のコンビニエンスストアで遭遇し、通報した。

この大代は平穩に過ぎていますが、前記に書いたような事件がいつ起こるとも限りません。

見かけない人や車を見たら、車のナンバーをメモしていただきたいと思えます。

山田 清野健也

私は愛媛県の新居浜市というところから、この島根県大田市大代町に来て今年の六月で二年になります。

今年の春からは、家族も来てにぎやかにになり、明るく新鮮な日々を過ごしております。

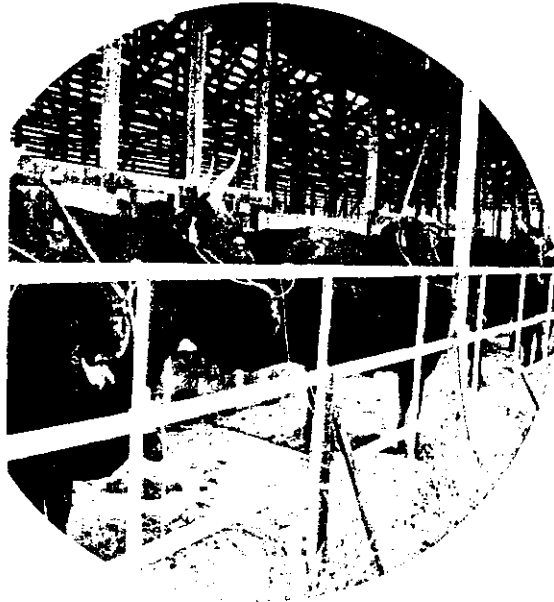
家族がこちらに来ることになった時は、子供の事でいろいろ不安があり、頭を抱える事もありましたが、地元の人達のお陰で、そういう不安もなくなり、子供達も以前と比べると、とても



清野牧場

のびのびと楽しく生活しているように思えます。

いろいろ迷惑をかけることがあると思いますが、今後とも、よろしくお願い致します。



大代の春の自然を食べる会

公民館

お天気にめぐまれた連休初日の5月1日、初めて「大代の春の自然を食べる会」を大田市久手町、坂本弘治先生を迎えて開催しました。

みんなで公民館周辺を散策しながら、食べられる山野草を採取して、公民館に帰って、てんぷらにして食べました。集まった子供たちも大喜びで美味しそうに食べていました。

一口感想

- 山菜をとり歩いてたのしかったし、てんぷらがおいしかった。
- 柿の葉がおいしかった。
- 道端の草花が食べられることがわかって、びっくりした。



○ 将来お金がないときは、粉と油があれば、草をとって食べることが出来るのだと思った。

○ 山菜を食べたら少しにがかった。

○ つばきの花・ふじの花が食べれてびっくりした。

○ てんぷらにしておいしかった。等、楽しい一日になりました。

貴重なギフチョウや

山野草を守ろう

大代公民館

大江高山の素晴らしさを知り、保護活動に参加していただこうと計画した自然観察登山の前に、二人の方に講演をしていただきました。

飛んでいるギフチョウを早く見ようと、はやる気持ちのなかで、皆さん熱心に聞いて頂きました。

講師先生の伊藤宏さんからは、オキナグサとヤマシヤクヤクの苗を抽選で八人の方にお土産としていただきました。そして、お二人から野草の説明を聞きながら頂上を目指しました。

II 講演の記録 II なぜいま大江高山の

保護活動が必要なのか

島根県立三瓶自然館

学芸員 井上雅仁

大江高山の自然保護について、どうして自然保護をする必要があるだろうか。どうして山野草を守っていく必要があるだろうか、ということをお話させていただきたいと思えます。

日本には、どれくらいの数の植物があると思われませんか。百だと思ふ方。十万位だと思われる方。実は今、七千種類から八千種類の植物が、日本にはあるとされています。ちなみに、その内のどれくらいの数が、絶滅にひんしていると思われませんか。実は、千七百種類が、今日本の植物の中で絶滅が心配されています。だいたい二十四%から二十五%にあたる数が、なんらかの理由で、日本の国内から無くなってしまう恐れがあるのです。

大江高山の自然を守ろう

植物にとつては、そういった非常に厳しい今の世界になるのですけど、ではどうしてそういった植物を守らないといけないのか、別になくたって僕達は毎日の生活ができるじゃない、というふうに思われる方もたくさんいらっしゃると思います。でも、なぜ守らなければいけないかは、三つ位大きな考え方があります。

一つは、「一寸の虫にも五分の魂」という言葉を皆さん聞かれたことがあると思いますが、我々も含めて生物の命は、すべて等しいという道徳的な倫理的な観念は、非常に大事な考え方だというふうな考えられています。ただ、虫を守ってもお金にはならないじゃないか、という方には非常に説得力の薄い考え方です。

もう一つは、生物はすべて何らかの資源になるだろうと考えられています。

例えば、新しいキノコからアガリクスダケですとか、まったく今まで聞かなかったキノコが、すごいガンに効く

成分がとれるようになった。

これは、その生物がもし地球上からその前に消えていけば、まったく薬品として、見出される事がなかったわけですね。

そういう意味ですべての植物、生物というのは我々に何らかの恩恵をもたらしてくれる、とつても大切な資源なのだという考え方があります。

ただ、そういつたときに、例えば「ここに住宅を建てよう」、そこには何かの植物が住んでいます。でも、その植物の将来の価値と住宅の価値と、どっちが高いかなと言われると比べるのが難しくなります。

あと三つ目の考え方としては、生き物たちが消えていくということは、それはすなわち、我々が生きていくうえでも、とつても生きにくい環境になるんじゃないかなという考え方があります。

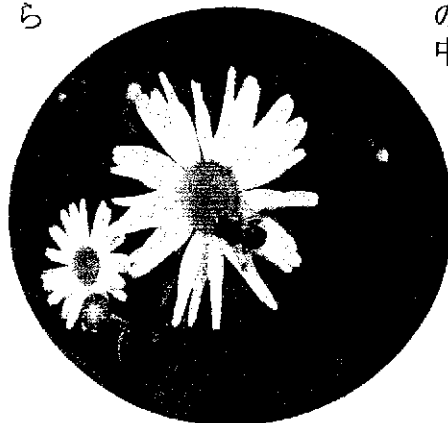
例えば、川で生物がたくさん消えていききました。それは川の水が汚れ、川という環境が、私達が生活する中でも、良くない環境になっていっているのではないかということです。生物がたくさんい

る環境というのは、私達にとつても生活しやすい環境なんだという考え方があります。

どれが正解というわけではないですけど、生き物たちが滅びずに残っていかつていくことは、それだけ、とつても大事なことなのだという風な考え方が出来るじゃないかなと思います。

ちなみに、今日登っていただく高山の植物の中にもいくつ

か絶滅が心配されているものがあります。保護活動に取り組んでおられるイズモコバイモという植物もその一つです。



これは、花が咲くまでにだいたい五年から六年かかるといわれています。

一年目、ちょうど今ぐらいですが、針のようなすごい細い葉っぱをつけます。それが何年もかけて、やっと花をつけるだけの栄養を蓄える。その期間が五

年から六年という風に考えられています。

今日歩いていただくと分かると思いますが、よく見ていただきたいのですが、草が刈つてある明るいところと、他の植物、すみれなどもたくさん咲いていると思います。そこからはちよつと藪の奥を見てください。おそらくそういつた花をつけている植物はすごく数が少ないと思います。

これは春に咲く植物というのは、すごく光をたくさん必要とするのです。その光というのは、昔は、例えば芝刈りするのにたくさんの人が山の中に入つて草を刈つていました。そうすると明るい環境がたくさんあったのです。

いわゆる里山といわれる環境です。そういつた環境が燃料革命などで人が山へ入る機会が減つてくると、どんどん荒れて藪のような状態になっていきます。そうになると、春の植物はとつても生活がしにくい環境になつちやうですね。

そこでこちらの公民館の方でやられているような、登山道の草刈りというのは、実は春の植物たちにとつてすごく良い効果が出たのです。それを今日

皆さんと一緒に登りながら見られれば
いいなと思っています。

公民館でやられている自然保護の活
動は、結局すべて我々の生活にはね返
ってくる、とても重要なことをやられ
ている事を皆さんに知っていただいで、
今後もうこういう活動を引き続き行われ
ることを、私はとても望んでおります。

つとつと

ギフチョウの

乱舞が見える

大田自然を守る会

会長 伊藤 宏



ギフチョウをみんなにお見せしたい
と、これで何回目かですが、なかなか
見ることが出来ませんでした。今年
はたくさん出ております。今日は必ず
見られます。

本当に昨年以上にチョウが多いです。
この前登ってみた時も上がる時は少し
寒かったのであまり見られませんでした。
た。その内、日が高くなつて気温が上
がってきたらたくさん目の前に見えて

きました。今日もきつとそうなると思
います。昨年この会をしたあとで、大
代小学校の子供たちがギフチョウを育
おいてみたいといったので、四月二
十八日に山にギフチョウの卵を取りに
上がり学校に持っていきました。

子供たちがエサを与えながら育てて
くれて、しばらくして、ちよつと来て
見てくれという事で、学校に行きまし
たら三齢か四齢くらいの幼虫になって
いましたけど、その時にエサがひとつ
もありませんでした。全部食べ尽くし
た状態で茎だけでしたので、あわてて
エサをやったのですが、その時子供た
ちにひよつとすると奇形になるかもし
れない。わずかの間に幼虫がさなぎに
なり成虫になる、そのためには、ある
時期はエサがたくさん要ります。エサ
を切った飢餓状態が続きますと、チョ
ウに羽化するときに力が足りなくて羽
根が伸びないという現象がおきてきま
す。

今年一頭目の羽化がやはりそうでし
た。羽根が伸びないことは自然界でも
たくさんあることですけど、羽根が伸
びないと飛べない、結局ちゃんとした

成虫にならないことです。でも私は子
供たちがいい経験をしたなとその時思
いました。やはりちよつと観察を怠つ
て、エサをやらない状態が続いたらそ
う言う結果が生まれてくるのが分か
りかえって良い勉強になったかなと思
って本当は喜んでいきます。

今日も来ておられる中央新報の方が
ちゃんとした成虫になったギフチョウ
を、二・三日前にカラー写真で出して
下さいました。本当に子供たちも喜ん
だと思います。

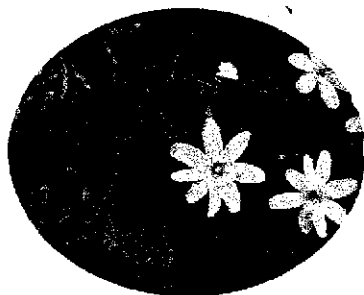
ありがとうございます。

今年も続けて子供
たちが観察したいと
言っておりますので、
協力しようと思いま
すが、この山のギフ
チョウは本当に日本
一たくさん生息して
おります。

この環境整備、

これは大代の公民館活動の中で大変よ
くやって頂いております。

これから先もギフチョウが飛び続け
ることを、我々は望んでおります。皆



さん方も今日こうして登って見られま
したら、大江高山のギフチョウのすば
らしさを、帰ってみんなに伝えてくだ
さい。そして、このギフチョウをみん
なの手で守っていきましょう。
ありがとうございました。



葉の花で吸密するギフチョウ

詩を読んで感じた事

関西高山会副会長 中本 弘

今から五十年前、ふる里大代町の田
畑をはじめ、道端でもっとも多く見ら
れたのは、黄色い花をつけたたんぼ
であった。

今でもたんぼは私の目に印象が鮮
やかにのこっている雑草の一つである。

ある新聞の朝の詩四月の「月間賞」
に選ばれた十歳の小学生の女の子の詩
を紹介したい。

たんぼぼ

めだたなくて

小さくて

せつかくきれいに花を

さかせているのに

少し かわいそう

でも 一度も見られていない

花なんて ない

なぜって いつも

神様が見ていてくださるから

作者の視線から「たんぼぼ」をみて

素直な心、たとえ誰が見ていなくても

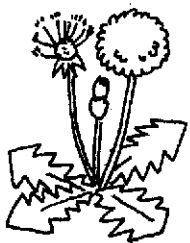
一生懸命咲く姿がすごいと感じたとの

ことである。

私は思う、どんなことであっても「一

生懸命精神」は常に見る人に感激・感

動をあたえるからである。



* 6月行事予定 *

- ▼ 6日(日) 関西高山会総会
- ▼ 13日(日) 福祉弁当
- ▼ 13日(日) 歩け歩け大会
- ▼ 15日(火) さくらんぼ教室
- ▼ 23日(日) 連合自治会

||お知らせ||

○大代地区社協より

弓久 窪田フサヨ 様

上飯谷 原田守男 様

香典返しにかえ金一封の御厚志を頂
きました。厚くお礼申し上げます

